

## 病気の子どものまわりには たくさんのニーズがある

病気の子どもとその家族を支えているのはハウス運営者だけではありません。例えば、病院に勤務するソーシャルワーカーや病棟ボランティア、病気の子どもの兄弟の遊び体験を企画するボランティア団体、患者会など当事者同士が出会えるような会などが、病気の子どもとその家族が抱えている不安や負担を軽減するための社会資源として考えられます。

しかし、病院によって、また、病院のある地域によって、どのような社会資源がそろっているかには差があります。

病棟の子どもにとって遊ぶ時間が大切であることも、兄弟が寂しい思いをしているのではないかという心配も、同じ心配を抱える人たちと相談をしたいという気持ちに地域の差はありません。

ハウスを利用している家族は滞り場所以外にも様々な心配を抱えています。ハウスを運営している人や団体が、「ハウスの近くにあるニーズ」に responding している例もあります。

病気の子どものまわりには  
たくさんのニーズがある



ハウスに患者会のパンフレットが置いてあることがよかった。地元で治療をしていたときは情報が少なかった。  
(ハウス利用者)

病気の治療をしている子どもだけではなく、自宅で帰りを待っている兄弟もたくさん我慢をして待っている。兄弟のケアは気になっているけれど、なかなか具体的な行動はできていない。  
(ハウス運営者)